

直播無培土栽培による丹波黒大豆の省力生産技術

農業総合研究所

要 旨

丹波黒大豆の直播無培土栽培は、移植、中耕培土作業などを省略することにより、慣行の移植栽培に比べ大幅に省力化することができる。直播無培土栽培で懸念される収量の低下と倒伏は、栽植密度を高め、7月上旬に晩播することにより軽減できる。

成果の概要

丹波黒大豆の直播無培土栽培は、種子を直播し、移植と中耕培土を省略する栽培法である。省耕起同時播種機械を用いて直播無培土栽培することにより、耕起、播種～中耕培土までの作業時間が慣行移植栽培の約11%に減り、大幅に省力化することができる(表1)。栽植密度を5～7本/m²程度に高めることにより、百粒重がやや低下するが(図2)、株当たり収量の低下を補うことができるため、慣行移植栽培と遜色ない収量を得ることができる(図1)。直播無培土栽培で懸念される倒伏は7月上旬に晩播することにより、6月中旬の標準播種に比べて軽減できる(表2)。

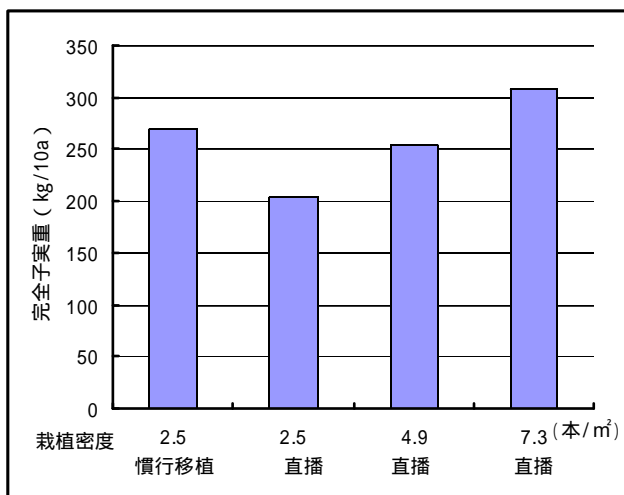
表1 作業時間の比較

	直播無培土栽培 (hr / 10a)	慣行移植栽培 (hr / 10a)
省耕起同時播種施肥	5.3	播種・うね立て・移植・基肥 49.6
除草剤散布	2.8	除草剤散布 1.2
		中耕培土 23.8
合計	8.1	74.6

表2 播種期・栽植密度と倒伏程度

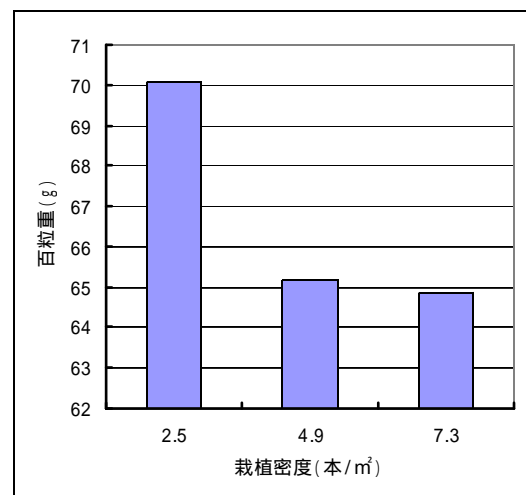
栽植密度 (本 / m ²)	2.5	4.9	7.3
標播 (6/14播種)	3.5	3.5	3.5
晩播 (7/8播種)	2.3	3.0	2.5

(注) 倒伏程度：無～甚の6段階



(注) 慣行移植：6月14日播種、6月24日移植
直 播：7月8日播種

図1 栽培法及び直播の栽植密度別の完全子実収量 (平成17年)



(注) 17年：7月8日播種
18年：7月11日播種

図2 直播の栽植密度別百粒重 (平成17、18年の平均)

(問合せ先：0771-22-5010)